

一般社団法人 高知県作業療法士会ニュース

# よさこい にゅーす

発行：平松真奈美 / 編集：森 祐輔



発行所：一般社団法人  
高知県作業療法士会 広報局

事務局：〒780-0822  
高知県高知市はりまや町1丁目5-29  
マンハッタンビル6階

<http://kochiot.com>



## 地域ケア会議特集

地域包括総合事業部

部長 杉本 徹

(リハビリテーション病院 すこやかな杜)

### ● 地域ケア会議の概要

介護保険法第115号の48第1項は、市町村が包括的・継続的ケアマネジメント支援業務の効果的な実施のために、地域支援者や専門職らで構成される「地域ケア会議」を設置しなければならないと定めています。当然ですが、この専門職の中に、作業療法士は入っています。それは、作業療法士が地域ケア会議に参画し、助言をすることは責務であると言われていたようにも聞こえます。

地域ケア会議の中でも作業療法士の活躍が期待される内容は、個別ケースについて検討する「地域ケア個別会議」でしょう。その目的は、地域支援者や専門職らと高齢者等個人の課題への対応を検討し、介護支援専門員等による自立支援に資するケアマネジメントの質を高めることや、高齢者等の実態把握および地域包括支援ネットワークを構築するという内容にあり、高齢者等の課題解決促進に参画できます。さらに、個別の事例検討では解決できない高齢者等に影響を与えている地域の課題等を把握することも目的としています。

### ● 参画状況と地域における作業療法士の必要性

地域ケア会議は、運動、栄養、口腔を共に考えることを重要視しており、ほとんどの会議において栄養士、歯科衛生士、薬剤師など専門職の参加が見受けられます。ただし、リハビリ専門職の3職種が揃って参加している自治体は数える程度です。作業療法士と理学療法士においても高知市などでは交代で参加しています。つまり、行政からみれば、作業療法士は生活行為支援のプロフェッショナルであることすら知られていないのです。高知県内における地域ケア会議の実施率は100%ですが、理学療法士の参加率はほぼ100%、作業療法士は40%弱、言語聴覚士は10%弱であり、その数値からもうかがえるところです。

医療・介護の事業所内では、同じ業界で活躍する職種間での関わりがほとんどなので、相互理解が得られているでしょう。でも地域では勝手が違います。私自身も高知市で助言も経験しましたし、視察で県内各地のケア会議に足を運んでいます。作業療法士の特性を理解してくださっている方は、残念ながらほとんどいません。地域参画は作業療法士の責務であると前述しましたが、こういう状況だと他職種に活躍できる職域を取って代わられるかもしれない不安を最近感じています。

地域に作業療法士が必要であることを知っていただくために地域包括総合事業部は活動しています。その活動内容を理解し、協力して下さる士会員が増えると幸いです。まずは、「地域ケア個別会議」に関する三団体協議会企画の「初回研修」「スキルアップ研修」「模擬研修」、県士会開催の「模擬演習」「フォローアップ研修」などを段階的に受講していただき、地域参画への準備を共に実践しましょう。

## 地域ケア会議に参画して

地域包括総合事業部 地域ケア会議班  
班長 郷久保 雄介



高知市の地域ケア会議に参画する前は「ハードルが高すぎる」と憂鬱に感じていました。正直、私は地域の事を全く知らない、他職種と話し合いもしたことがなかったからです。

しかし、参画してみると「参画して良かった!」と肯定的な気持ちに変わっていきました。その理由を以下に挙げてみたいと思います。

病院勤務では直接会う機会のなかった、事例と地域で接している方々から話が聴ける。

1 事例に多くの時間を割き、より多くの意見を聴く事ができ、作業療法の視点が広がった。

個別事例への助言だけでなく、地域課題の抽出として、例えば「バス停の場所を変更・増やしてほしい」等自身の意見から地域づくりへつながる事ができ、有意義な経験ができた。

上記以外にも印象が変わった点として、対応課題の優先順位決定には、普段の臨床場面で行っているアセスメントを活かせる部分が多くあり、病院と地域をつなぐきっかけとなり得るのではないかと感じました。また、普段の臨床現場においても、対象者の住んでいる地域をイメージしやすくなり、他職種からの視点も意識する事が出来るようになりました。その為、以前よりも、入院初期から退院後の地域での生活を想定して深い対応が出来るようになったと思います。

作業療法士は「高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施」と事業の実施職種にも明記されており、積極的に地域参画できる作業療法士が必要とされています。士会員の皆さん、地域ケア会議への参画をお待ちしております。

## 「広報編集部の広報活動」に関するアンケート調査の報告

広報編集部 部員  
村井 良太

この度アンケートを実施させていただき、160名もの方の生の声を拾うことができました。ご協力をいただき、誠にありがとうございました。よさこいにゆーすに対して、非常にポジティブな捉え方をいただいている事や、ホームページに関しては、内容の充実さ等、まだまだ皆様の声にお答えしきれておらず、改善の余地があると気づくことができました。アンケート内容の「印象に残った記事」は、今後もよさこいにゆーすやHPへ掲載していきますので楽しみにお待ちください。

私たち広報編集部は、企画を決意しました。皆様から頂いた【今後見てみたい記事はありますか?】という質問で上位に挙がっていた〈士会活動・研修会スケジュールの提供〉〈作業療法士の紹介〉などの実施を来年度の重要課題として企画を始めていこうと決断しました。

『高知県作業療法士会を私たちみんなで作り上げていく!』

そのためには皆様一人ひとりの声を拾い集め、それを形にしていく必要があると思っております。そのためにも皆様の声を受け止められる仕組みを作り、皆様と一緒に形にしていければと考えておりますので、今後ともご協力の程よろしくお願いたします。

# 今年度より、高齢者・障害者の 自動車運転支援委員会を発足しました

(五十音順)

澤田 将志(近森リハビリテーション病院)

## 研修会に参加して学んだこと

動体認知検査 (Dynamic Vigilance Checker) では、追跡課題や突発課題を体験し、結果を紙面で見せていただき、注意点や走行中に必要な能力を改めて学ぶことができました。また、構内での運転実技では手動運転装置や左アクセル、左旋回装置、ワンペダルを実際に体験することができました。ワンペダルでは、操作に慣れることに時間はかかりましたが、普通車と比較すると踏み間違いの心配もなく、急ブレーキ時の空走距離も短いため事故の軽減が図れると感じました。

## 会員へメッセージ

改めて、障害を有する方の自動車運転の難しさを知ることができ、福祉車両や福祉機器など環境調整によってできる動作が、まだまだあるのだと学ぶことができました。自動車運転は、生活するにあたって必要不可欠な移動手段の一つです。高知県では、脳卒中や肢体が不自由な方、高次脳機能障害を有する方は、特に自動車運転再開の希望が強い方が多いと思います。そういった方々を支援するためにも、まずは自身で今回のような講座に参加し体験してみたいかがでしょうか。講座を通して、運転に対する知識や運転技能特性などを理解することで、今後の自動車運転支援に活かしていけると思います。

中島 早智(近森病院)

## 研修会に参加して学んだこと

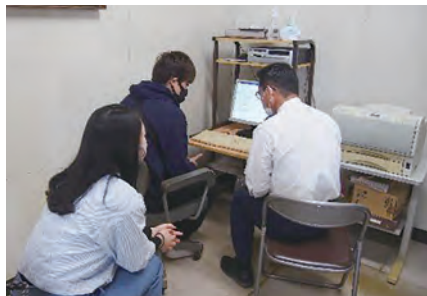
左アクセル、左回旋装置・ワンペダルといった改造車の運転、頸髄損傷による四肢麻痺の方の乗り降り動作を体験しました。改造車の運転では S 字クランクや駐車で特に難易度が高く、乗り降り動作では車椅子の積み込みに苦戦をしましたが、とても良い経験ができたと感じています。今回の体験を通して、詳細な評価や手段の検討は、自身の運転能力に対しての認識を深めることに繋がると思います。

## 会員へメッセージ

公共交通機関の整備が不十分な高知県では、自動車での移動に依存している傾向にあります。買い物や仕事・趣味など、これまで生活の中で自動車の使用を不可欠としていた方が、突然それを失った場合どうなるでしょうか。活動範囲は狭まり、ひととの交流機会は減少し、生活の質に影響することが考えられます。私たちセラピストは、運転再開の可能性を広げること、また、運転不可能と判断されたとしても、対象者の方が少しでも納得できる形で運転を卒業でき、移動方法を検討するサポートをしていくことが必要であると考えています。講習に参加したことで、まずは、セラピスト自身が対象者の方への運転支援について知ること、それらの情報を発信していくことが重要であると再確認できました。



移乗動作



動体認知検査



福祉車両展示